

歴史資料館だより

第四回聖隷信徒交流会について

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
理事長 長沢 道子

六月十五日、第四回聖隷信徒交流会が開催され、私どもは実行法人として企画・実施に当りました。お招きしたのは、キリスト信者は勿論のこと、未信者であっても、聖隷グループの(キリスト教精神に基づく)働きのために協力して下さっている職員、また、この働きのために祈って下さる方々で、目的は次のように定めました。

- ① 聖隷のスピリットにふれる、
- ② 楽しく親しい交流の時を持つ。
- ③ 日頃多忙な人々が癒され元気になる、神と人々に仕える新たな気持ちを与えられて、帰路につく。

これまでは、聖隷創設期の先輩たちから有益なお話を伺いましたが、今回は、「聖隷と深い関わりがある、開拓的な働きをしておられる方からお話を聞く」と決め、向谷地生良氏(北海道医療大学教授)と、佐々木炎氏(牧師で、中原ホツとスペース代表)をお願い



向谷地 生良氏

しました。向谷地先生は、統合失調症の人々とともに歩み、この人たちの自信回復と、人間力アップのため支援しておられる方。長谷川保先生の講演に感動したことが、今につながっているそうです。



佐々木 炎氏

佐々木先生は、元暴走族リーダーという異色の牧師。ヘルパー学園の卒業生で、聖隷の施設ご利用者から、「福祉の仕事が向いている」と褒められたことが進路を決定づけたとのこと。現在、子供やお年寄りにホッとする居場所を提供中。

当日の参加者は一一〇名くらい。プログラムは、こんなものでした。

- ① 開会礼拝(故・長沢巖牧師の説

発行者 聖隷歴史資料館

〒四三三-八五五八
浜松市北区三方原町三四五三
聖隷クリストファー大学五号館一階
TEL 〇五三(四三九)三四〇七
FAX 〇五三(四三六)五三五五

教「互いに足を洗う」)。② 聖隷創設期の歩みをDVDで見る。③ 交流会の提言者・長谷川了理事長の挨拶。④ 二人の講師のお話。⑤ グループに分かれ本日の感想を話し合うとともに親しく交流。講師への質問も出す。⑥ 手話による讃美歌練習。⑦ 終わりの祈禱。

参加者の感想としては、① 開会礼拝にも励まされた。② 聖隷創設期の歩みに感動し、自分たちがこの働きに連なっていることに感激。③ お二人の講師の話は面白く、魅力的だった。聞く時間が短くて残念。④ 楽しい交流ができた、等々。

向谷地先生への質問、「心を病む人に、どんな姿勢で関わっていますか」に関しては、「患者と専門家という関わりではなく、相手も私も同じ人間であり、隣人として関わっている。支援者の自分が一番問題だと気づかされている」とのご返事。その言葉が胸に迫ると同時に、先生と仲間達の生き生きとした笑顔が浮かんできました。

佐々木先生は、「教会と社会福祉事業との両立は大変でしょう。今後どうされますか？」との質問に、

◆聖隷歴史資料館

開館時間のご案内◆

平日(月・金)の10時~17時
(入館は16時30分までに
お願いいたします)

「どうでしょうか？私も悩んでいます」と答え、笑いを誘いましたが、この正直な姿勢も又、とても大事なことだと思われました。

今回は参加者の皆様に色々な役割を担って頂き、ぶっつけ本番で実践をお願いしましたが、さすが聖隷グループ。困ることは何もなく、多様な賜物を持った方々がおられることに心から感謝しました。不完全な私たちですが、主の豊かな愛を頂いて、今後も、人々に希望と喜びを与える役割を果たし続けられますよう願っています。



手話による讃美歌練習

新・聖隷歴史資料館のご案内

学校法人 聖隷学園 専務理事 小柳守弘

聖隷歴史資料館は、二〇一三年三月末に大学二号館2階から大学五号館1階に移転し、リニューアルオープンいたしました。

三月二十八日に行われた開館礼拝では、一〇〇名におよぶ方々にご出席していただき、長谷川了聖隷学園理事長および昨年百歳を迎えられた当館館長の鈴木唯男氏が挨拶をいたしました。

当館のリニューアル計画は、聖隷グループの各法人のご協力のもと、二年にわたり構想を練り上げました。リニューアル後の館内は、聖隷の精神、歴史ゾーン、グループゾーンと三つのセクションで構成されており、従来の展示パネルに加え、最新鋭の映像機器を配置しております。

歴史ゾーンでは、聖隷にゆかりのある人物やトピックスのデジタル情報を増やし、長谷川保氏のインタビュ映像もご覧いただけます。大型モニターでは、最新の手法で映像を再生する、ジェスチャーコントロール機能を用い、各法人のターニングポイントを1分でご紹介しております。

グループゾーンでは、各法人（聖隷福祉事業団、十字の園、小

羊学園、牧ノ原やまばと学園、神戸聖隷福祉事業団、聖隷学園、インド聖隷希望の家、ブラジル希望の家）の、年表や事業内容の紹介、ゆかりのある方々の情報や映像などを各モニターでご覧いただけます。

開館以降、より利用しやすくなったとお声もいただき、多くの皆様にご来館いただいております。是非、新しくなった聖隷歴史資料館にお立ち寄りください。



館内の様子 (ジェスチャーコントロールモニター)

長谷川保 講演の足跡調査

(前半：一九六五～一九七五年)

聖隷歴史資料館では、聖隷創業者 長谷川保の「衆議院議員手帳」の一九六五年から二十四年分を所蔵しており、長谷川保が一九六六年十一月に「日本基督教団全国信徒会会長」に就任して以来、ほぼ毎週末、全国各地の教会に精力的に駆けつけ、翌日の主日礼拝での説教や特別講演会をしていたことがわかります。そこで、この手帳をもとに、長谷川保の全国行脚の伝道の足跡を辿る作業に着手し、この度一九六五～一九七五年までの前半一〇年分がまとまりました。その結果、一九〇教会で延べ二九一回の講演を行っていることがわかり、その結果を日本地図上に表記して館内の一角に掲示しております。長谷川保が訪れた教会は、三十八都道府県に及んでいて、各教会に送付した調査依頼状の回答資料によると、長谷川保の訪問は、各地の教会、教会員に大変な勇気と励ましを与えたようです。

一九六六年に訪問した鹿沼教会(栃木)からのご回答には十一月十三日の特別伝道の記録として「長谷川保先生特伝、数日前より会員手分けしてチラシを各所に配り、ポスターも多数市内に貼り宣伝に努力する。(中略)働く人々の福祉のために、日夜精魂を打ち込んでいるクリスチャンだけあって信仰による大事業に精励されつつ私どもの範とすべき大先輩である。『共に喜びをここに』と題して大講演、聞く者大いに激励される。出席者五十四名。」との記述があります。一九六八年の手帳には、岡山県瀬戸内市邑久町にある光明園家族教会に七月十六日に訪れると記録されており、ハンセン病患者の方々と家族をも激励して回ったことがわかります。一九六九年十一月二十二、二十三日の両日、善通寺教会(香川)での講演チラシには、「この混迷の時代に預言的洞察に富んだ伝道者の声に耳を傾けませんか。講演者の長谷川保は、政治家として十七年間連統衆議院議員として、また、社会事業家として活躍しておられます。信仰の人、神の人として、多くの人々から信頼と尊敬を受けている人です。」と記されており、長谷川保の名が全国に轟いていたことが伺えます。一九七一年九月十九日に訪問した大和キリスト教会(奈良)から寄贈された教会活

聖書のいっぴは 「彷徨 神の約束の地に導かれ…」

学校法人 聖隷学園 宗教主任 永井英司

三方原の地が秋色に染まり始めている。新五号館の後ろにあった旧五号館は、長きにわたる役目が解かれ、無事解体工事を終えた。その跡地は整地がなされ、十一月のホーム・カミングデー、聖灯祭では十種類の模擬店と休憩所となつて同窓諸兄弟を迎えた。交歓の広場としてその務めを果たした。

二〇一三年度の事務職員夏期研修会において「彷徨 神の約束の地に導かれ…」と題して、拙い奉仕をさせて戴いた。聖書は創世記十二章一節と、出エジプト記六章二節を用いた。お気づきの通り、神の約束の地、乳と蜜の流れる地カナンをめざしてイスラエルの民が彷徨していく記事である。

アブラハムもモーセもこの務めを、強いられた神の恵みとして受け止めた。そして、二人はそれぞれに神の先手としての使命を担い続けるのであった。彷徨の言葉どおり、押し寄せる艱難辛苦の中を、ただただ神の声に聞きつつ歩み続けて行くのであった。この世の諸勢力は行く道を阻み続けたが、民の群れは神の約束の地、乳と蜜の

流れる地カナンを目指しひたすら進んでいくのであった。

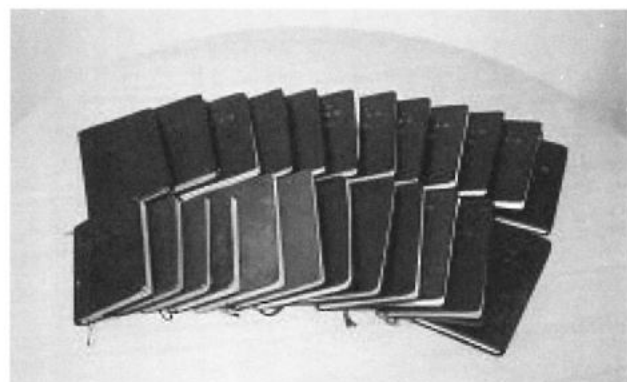
先人たちが導かれた約束の地、三方原は、崇高なる使命感をもつた若者たちが全国から集い、今や医療、福祉、教育という三つの業が豊かに花を付け、多くの実を結び続けている。彼らは専門知識と技術、そして隣人愛を体得するために学び、また全国津々浦々へと羽ばたいて行くのである。隣接する病院からはドクターヘリが離発着を繰り返す。地域社会との共生を確立し、更なる絆の構築に貢献し続けている。

浜名湖エデンの園の園内に「恩賜記念館跡公園」を訪ね、先人たちの献身的働きに思いを馳せる。記念碑脇には本学の歴史と発展を見守り続けるように樺の巨木が枝々を広げ、「エルサレムの広場」には、再び、老爺、老婆が座すようになる。それぞれ、長寿のゆえに杖を手にして。都の広場はわらべとおとめに溢れ、彼らは広場で笑いさざめく。(ゼカリヤ書八章四節〜五節)と、静かに囁きかけてくれた。

動報告によると、集会には百四十六名の参加ありと記録されています。一九七四年五月十二日には、岡崎教会の朝礼拝において七十三名の信者を迎え、「聖書直伝の信仰に生きて」という内容で説教をおこなっていることが、同教会の現牧師よりご恵贈いただいた百年史と週報の原本から確認することができます。扇町教会(大阪北区)では、一九七四年六月十六日に特別伝道礼拝として、長谷川保の説教を二百五十一名の方にご聴講いただいたとの記録もございませす。特に印象深いのは一九七五年六月八日(日)に西神戸教会に訪問しており、翌年の一九七六年には恵生園が開園されています。西神戸教会から寄贈された長谷川保の「説教要旨」によりますと、恵生園が成功する秘訣が四つ記されており、教会員としての在り方、教会の在り方が示されています。又一九六八年四月七日に榛原教会を訪問しており、二年後の四月に「やまばと学園」が開園しています。ここでも、牧ノ原やまばと学園の創設に尽力された人々の心を燃え上がらせたことが推察されます。

一九七六年以降につきましては現在調査中でございます。いずれかの機会にご報告させていただきます。いと考えております。

長谷川保の手帳、そして、ご回答いただきました教会等からの週報・記念誌などの貴重な資料は、歴史資料館で大切に所蔵して参ります。



長谷川保の手帳類(24年分)

聖隷グループ情報コーナー

【社会福祉法人 十字の園より】

◆韓国東部地域におけるキリスト教社会事業視察研修

期日 二〇一三年十一月二十五日から二十九日
行先 ソウル市内と江原道

長谷川保聖書研究

マタイによる福音書第五章七、十二節

七節、「憐れみ深い人たちは幸いです。彼らは憐れみを受けるであろう。」

「憐れみ」、これは「エレイモン」というギリシヤ語でございまして、真剣に相手の立場に身を置いて、その人と同じ気持ちで物を見たり感じたり、悩める人々を救済したいという願いを行為・行動で表す最もキリスト教的な言葉です。そういう人たちは幸いです。この「幸いです」は「マカリオス」ですね。私どもの本当の幸せ、神の祝福を受ける。「彼らは憐れみ」を受けるであろうという字は「エレウセイリヤ」というギリシヤ語で、「奴隷として束縛されない、本当の自由を得る」という言葉であります。非常に困難をしている人の中に入って、その人と全く同じ心をもって、その人になりきって、その困難から解放してあげよう願い、行為と行動で表わす。そういう人たちは本当の自由を得る。罪の奴隷として束縛されずにそこから解放されるという意味であります。そう考えますと、

これは神の子にいまし給うたけれども、その地位を固く保たんとは思わず、かえって己れを低くしてこの世に来て、私どもと同じ人間になられ、私どもの身代わりになり十字架について、私どもの死をお引き受けになり、私どもを罪の奴隷から解放してくださったイエス・キリストを表す言葉ですね。イエス・キリストの十字架の罪の贖いによって、私ども自身が罪許された者でありますから、自ら憐れみ深い人となって世に出て行って世の人々の重荷を負う。その時に本当の自由、罪の奴隷からの解放が得られる。この点をルターは明確に言っておるわけですね。ルターほど信仰によってのみ義とせられるという聖書の言葉を強く主張した人はありません。イエス・キリストの十字架の罪の許しを信ずる信仰によってだけ私どもは救いを受けるのである。彼はまたそのようなに私どもが罪を許されたから、我も行って兄弟のために善き業をすべきであると強く主張いたしました。これを逆にすると一切の救いの信仰による義を失います。主が我らをお許しになった。十字架の罪の贖いによって、無条件で私どもをお許しになったのだから私どもも出て行って無条件で、重荷を負う人々の中に入り、その人の立場にたつてその人々を解放し、その人々の重荷を共に負う。

この順序を間違えますと一切の救いを失うことになります。

八節、「心の清い人たちは幸いです。彼らは神を見るであろう。」

「心」という字は「カルデイヤー」というギリシヤ語で、人格、内的生命、魂、知性、理性、或いは私どもよく霊という言葉を使いますが、「霊において」と訳してもいい言葉です。「清い」という言葉。これも聖書には実によく出てくる「パシヤロス」というギリシヤ語で、「乳に水を混ぜえない」という意味の言葉ですね。そこから「純粹な、純潔な、清潔な」という意味になった言葉でありますから、人格が純粹な人、純潔な人格の人、魂の人、純粹な理性を持つている人、そういう人たちは神の祝福を受ける、幸いです。彼らは神を「見る」であろう。この「見る」という言葉は「ホラオー」というギリシヤ語です。この「ホラオー」は靈的に見る、あるいは洞察する、経験する、心の問題としての「見る」であります。そういう人格の純潔な、純粹な理性の人たちは神を靈的に見る、あるいは神を認める、神を経験するという事です。私どもは聖霊を受けて新しい者とされる。「人新たに生まれずば、神

の国を見ることあたわず。」ここに「新たに」という言葉が出てきますね。これは「神から」とか「天から」とも訳せる言葉です。神様から生まれたような純粹な心にならなければならぬ。何らの功なくしてただ神の恩恵によって神の子とされたという時に、どうして私どもは汚い心、自分のことを先に考えるような心でおられるでしょう。ただ神の栄光のためにのみ、主がお命じになりました清い愛の業を致したい、喜んでほしい、進んで労苦を労苦としないわけです。だから本当に純粹な人格というものを、それこそが私どもが地上に生まれてまいりました目的であります。またそこだけ、神の祝福があり、幸いがあるわけです。本当の幸いとはそこ以外にないわけですね。だからまづ神の愛があつて、その神、主イエス・キリストが私どもの中に入ってきて、私ども自身となつた、そうして救いの業をなし給うた。そのことを知った時に私どもは心は純粹にならざるを得ない。その純粹な精神、純粹な清い愛こそ人生の目的である。私どもが人の世に生まれてまいりました目的は、そのような神の子になるということです。それ以外の何ものでもないであります。

(続く)